

# 产地直送便



発行(農)山形おきたま産直センター  
山形県南陽市漆山 1068  
TEL 0238 (47) 7338  
<http://www.okitama.net>  
2017.6.1 発行 責任者 島崎栄一

## 田植え

青年部 野口 博人

田植えの準備も進み、そろそろ田植えの時期が近づいてきました！

私は昨年から農業を始めたばかりの新規就農者なので2年目の田植えになります(^^)

田植えまでには様々な準備が必要で、やるべき事がたくさんあります。

3月下旬から種糓の準備を始め、【温湯処理】された種もみを水につけて膨らませていきます。(浸種)

4月中旬に【播種】を行い、その後苗を並べて【プール育苗】にて苗を育てていきます。苗の管理と並行して、今度は田んぼでの作業が始まります。



4月下旬から田んぼに肥料を撒いて、【田起こし】していきます。有機栽培の田んぼでは田起こししていると鳥たちがたくさん集まってきて、田起こし作業も楽しいものです。それが終わると水路の水を田んぼにいれ【代掻き】をしていきます。



なかなかこの作業が難しい!!(>\_<)

田んぼを平らにするのに一苦労です(>\_<)

その作業が終わるとようやく【田植え】です。

今年も美味しいお米を作るために、手間を惜しまず、何より皆さんに安心して美味しく食べてもらえるようにこころを込めて作っています!!

## デラウェア

### ～ジベ処理(ジベレリン=植物ホルモン)～



現在5月の下旬ですが、デラウェアの1回目のジベ処理を行っています。デラウェアは、2回ジベ処理を行います。1回目は種を無くすため、2回目は果実肥大のためです。より気を付けなければいけないのは1回目のほうで、時期が早いと、房が長くなってしまって粒が着かなくなり、遅れると房が短くなり粒が密着しすぎて、その後の摘粒作業が大変になります。また、処理前後の天候でジベレリンの吸収され方も変わってきます。乾燥し過ぎていると、十分に吸収される前にジベが乾いてしまい、種有りの粒が混じることもあります。栽培上重要なポイントの1つだと思います。

果樹部会 部会長 近野肇

**里芋**

野菜部会 副部会長 小口孝之

青年部の小口孝之と申します。

私は野菜を生産しています。今は里芋の定植をしています。

4月中旬に種芋が届きました。

それをハウスの中か、路地であればトンネルをして保温のために土の中に埋めて芽を出させます。5月上旬、畑の準備が出来たら植えていきます。

色々なやり方があると思いますが、私は30cmくらいの高さのうねを作り深めに植え付けています。

まだ5月の山形は朝が寒く、なるべく遅く芽が出て霜の害から守るためです。

10月からの収穫まで、管理作業をしていきます。



## 産直米変更連絡用紙

山形おきたま産直センター行き → FAX 0238-47-7318

お休みや重量変更などのご連絡は、お届日の10日前までにお願い致します。

急な変更等は対応出来ない場合がございます。早めのご連絡をよろしくお願い致します。

お客様 NO (納品請求書の左上 5 行の NO) FAX 送信日 月 日

姓名 楊 - -

お休み連絡 月 日お届け分のみお休み  
月～ 月までお休み

□変更連絡 月 日お届け分の変更  
～変更内容～

